



通年コース第三・四回開催報告「樹木分類、測量」

# 『椶と鯖、於瓢と大鯿』

カッターがカラマツの梢のついでで鳴くこの季節、樹木分類の日の午後、伊那市小黒川渓谷沿いの道を、信州大

学西駒演習林手前まで歩いてみました。途中、講師の園田さんがオヒヨウを見つけて説明すると、塾生の皆さんは「魚にも同じ名前があるよね。」そう、冷たい海に棲むカレイの仲間、大きいものは3mにもなり、回転すしの「えんがわ」の材料となったり、フィッシュ・アンド・チップスに使われたりと重

宝されている魚がいますね。漢字では大鯿と書くそうです。一方樹木のオヒヨウは、アイヌ語で樹皮をオヒウと言うことから、この樹の丈夫な繊維を織って衣服としたことで名付けられたようです。ニレ科の高木で、この辺りでは亜高山帯に生えています。葉先が分裂したりしなかつたりですが、多くの場合は3分裂で、ガンダム顔みたいで記憶に残りますよね。漢字の於瓢はおそらく当て字で、

魚と同音ですが名の由来は異なるようです。魚と樹木、同じ名前も他にもあります。たとえばサワラ。魚偏に春と書けば今が旬の出世魚サワラ。1mを超え脂ののった新鮮なお刺身は絶品ですが、信州ではなかなか味わえません。この名前の由来は体型が実にスマートで「狭い腹、すなわち「狭腹(さはら)」が転じてサワラになったというのが有力です。出世の前段階ではサゴシとも呼ばれていて、KOA社員食堂でも時々お目にかかりますが、これも「狭腰」から来ているようです。若い時も成魚になってもこのスマートさが売

り物の名前、メタボのお父さん、目指せサワラ。さて、樹木の方は木曽五木にも数えられるサワラ。漢字では椶と書きますが、これは古語の「さわらか」、すなわち

「さっぱりしている」というところからきているという説があります。確かに匂いの少しきついヒノキと比べると、穏やかな、さっぱりした匂いですし、材も相当軽いので、納得できる語源です。ご飯のお櫃をヒノキで作ると香りが移って大変ですが、サワラなら大丈夫、しゃもじにしてもおとなしい香りです。また、水に強いので風呂桶や洗い桶、あるいはお風呂のすのこにすればはカビが生えにくく重宝します。でも最近ではプラスチックなどに取って代わられそんなに需要も減って、材の値段はヒノキの2、3割程度です。

温暖化の影響か、上伊那地方でもたまに見かけるようになったヒイラギはモクセイ科の常緑小高木で、漢字では木偏に冬と書きます。葉っぱがチクチクすることもあり、目隠しと防犯を兼ねて生垣にされることも多いようです。初冬に上品な香りの小さな白い花が咲きます。飯田市より南の下伊那地方では、節分にイワシや煮干しの頭を枝に刺して玄関に飾り、邪気を払う風習があったそうですが、今も続いているのでしょうか。チクチクと痛いことを、これも古語でしょうか「疼らく(ひいらく)」と言うそう、これが語源のようです。赤い実がかわいく、クリスマス・リースに使われるセイヨウヒイラギはモチノキ科の別種です。さて、堤防でオキアミを餌にアシのサビキ釣りをしていると、時に大量に針掛かりする外道のヒイラギ、吻を尖らせてギギー騒いで暴れ、しかも背びれがチクチクして針から外しにくく往生します。大きさもちょうど葉っぱサイズ、こいつはどうやらヒイラギの葉っぱに似ていることから名付けられたらしい。小さいし、背びれや骨が硬いし、内臓が苦いのでおかつリリースですが、実はとても美味らしい。

他にはカマツカ、バラ科カマツカ属の灌木で、材が強靱なため鎌の柄に使われたことな形は、塩焼きにするとそれこそ鎌の柄によく似ています。樹木の方と同じ語源らしい。



対生だったらモミジ・カエデ類を疑う



小屋の前に店を上げて検索、同定中

さて、樹木の方は木曽五木にも数えられるサワラ。漢字では椶と書きますが、これは古語の「さわらか」、すなわち

「さっぱりしている」というところからきているという説があります。確かに匂いの少しきついヒノキと比べると、穏やかな、さっぱりした匂いですし、材も相当軽いので、納得できる語源です。ご飯のお櫃をヒノキで作ると香りが移って大変ですが、サワラなら大丈夫、しゃもじにしてもおとなしい香りです。また、水に強いので風呂桶や洗い桶、あるいはお風呂のすのこにすればはカビが生えにくく重宝します。でも最近ではプラスチックなどに取って代わられそんなに需要も減って、材の値段はヒノキの2、3割程度です。

温暖化の影響か、上伊那地方でもたまに見かけるようになったヒイラギはモクセイ科の常緑小高木で、漢字では木偏に冬と書きます。葉っぱがチクチクすることもあり、目隠しと防犯を兼ねて生垣にされることも多いようです。初冬に上品な香りの小さな白い花が咲きます。飯田市より南の下伊那地方では、節分にイワシや煮干しの頭を枝に刺して玄関に飾り、邪気を払う風習があったそうですが、今も続いているのでしょうか。チクチクと痛いことを、これも古語でしょうか「疼らく(ひいらく)」と言うそう、これが語源のようです。赤い実がかわいく、クリスマス・リースに使われるセイヨウヒイラギはモチノキ科の別種です。さて、堤防でオキアミを餌にアシのサビキ釣りをしていると、時に大量に針掛かりする外道のヒイラギ、吻を尖らせてギギー騒いで暴れ、しかも背びれがチクチクして針から外しにくく往生します。大きさもちょうど葉っぱサイズ、こいつはどうやらヒイラギの葉っぱに似ていることから名付けられたらしい。小さいし、背びれや骨が硬いし、内臓が苦いのでおかつリリースですが、実はとても美味らしい。

他にはカマツカ、バラ科カマツカ属の灌木で、材が強靱なため鎌の柄に使われたことな形は、塩焼きにするとそれこそ鎌の柄によく似ています。樹木の方と同じ語源らしい。

属や塵の事を「ゴンゾー」と言う地方があるそうですが、ここから来たのがミツバウツギ科の羽状複葉の葉をもつ小高木ゴンズイと、ナマズ目ゴンズイ科のゴンズイ。日本の植物学の父と

「さっぱりしている」というところからきているという説があります。確かに匂いの少しきついヒノキと比べると、穏やかな、さっぱりした匂いですし、材も相当軽いので、納得できる語源です。ご飯のお櫃をヒノキで作ると香りが移って大変ですが、サワラなら大丈夫、しゃもじにしてもおとなしい香りです。また、水に強いので風呂桶や洗い桶、あるいはお風呂のすのこにすればはカビが生えにくく重宝します。でも最近ではプラスチックなどに取って代わられそんなに需要も減って、材の値段はヒノキの2、3割程度です。

温暖化の影響か、上伊那地方でもたまに見かけるようになったヒイラギはモクセイ科の常緑小高木で、漢字では木偏に冬と書きます。葉っぱがチクチクすることもあり、目隠しと防犯を兼ねて生垣にされることも多いようです。初冬に上品な香りの小さな白い花が咲きます。飯田市より南の下伊那地方では、節分にイワシや煮干しの頭を枝に刺して玄関に飾り、邪気を払う風習があったそうですが、今も続いているのでしょうか。チクチクと痛いことを、これも古語でしょうか「疼らく(ひいらく)」と言うそう、これが語源のようです。赤い実がかわいく、クリスマス・リースに使われるセイヨウヒイラギはモチノキ科の別種です。さて、堤防でオキアミを餌にアシのサビキ釣りをしていると、時に大量に針掛かりする外道のヒイラギ、吻を尖らせてギギー騒いで暴れ、しかも背びれがチクチクして針から外しにくく往生します。大きさもちょうど葉っぱサイズ、こいつはどうやらヒイラギの葉っぱに似ていることから名付けられたらしい。小さいし、背びれや骨が硬いし、内臓が苦いのでおかつリリースですが、実はとても美味らしい。



道の真ん中ににど座ってお弁当を広げる人々

いわれている故牧野富太郎博士がこの説を推しているそうですので樹木のゴンズイの方は的を射ているのかもしれない。確かに調べてみても、若葉は食用くらいしか利用法が書いてありませぬ。でもゴミヤクズは可哀そうですよ。まあ、アホウドリや食用ガエルよりはましかも。

海にいるゴンズイは、シュノーケルで岩場に潜ると、何十匹も塊になっているのを見かけます。いわゆる『ゴンズイ玉』なのですが、連中は背びれの棘条に毒を持って入るので、即、退散してください。磯の小物釣りでも時々かかるのですが、万一刺されたら激痛が走り、命にかかわるため取り扱い注意の魚です。で、大抵の場合直接触れずに海にお帰り願うのですが、なんとネットで検索すると、ある地方では毒針を抜いてみそ汁の具、とのこと。またそれが絶品品のようです。試してみますか？

思いついた、樹木と魚の同音の名前はこんなものではないでしょうか、まだあるかもしれませんね？

通年コース第3・4回  
5月27・28日(金・土)

樹木分類・測量

28日(土)は測量と午後の製図。コンパスを据えて平地でレベルを取るのそれはほ



傾斜がきつく、コンパスのレベル取りが難しい



大ベテラン手つきも鮮やかに...かな？

ど難しくはありませんが、30度近い傾斜地でレベルを取るの慣れないと至難の業。最初に採ったデータは小池チームも水津チームも数%の誤差で、これでは製図の作

でも一度は山の中をコンパスを持って測点を捜しながらの測量を経験しておいて損はありません。時間はかかりませんが手軽にできますし。

業に入れません。明らか計測ミスか記入ミスがあると思われるので、現場に戻り2班合同で再計測。結果0.27%の閉合誤差で、これならデータとしては十分合格範囲で、めでたく製図作業に入れました。

GPS衛星を利用した森林の測量が可能になり、パソコンですぐに地形図を描いてくれる時代で、スマホを持って歩けば自分の歩いた軌跡も地図上にも落としにくれます。

そういえば、6月3日は『測量の日』1949年6月3日に測量法が制定されたのが由来とのこと。平成元年に制定されました。キャラクターは『マッピーくん』。相当マイナーっぽいけど。

試す価値あり北欧式受け口づくり

専門コース第1回開催報告

伐倒しようとする立木の重心を讀んで、どんな道具を使ってどちらの方向に倒せば一番安全か、退避路はどこにするか、そんな設計が決まればまずは受け口作りにかかるとなります。

初心者が最初に突き当たるのが、受け口の水平切りと斜め切りがぴったり合わないこと。ここが合わないと最後に残すツルの機能が発揮できないので修正の必要が生じます。斜め切りを切り増し、そして水平切りを切り増して修正を重ねると、どんど

この方法は、一度北欧式の受け口作りを試されたらいかがでしょうか。これはまず、斜め切りから始めて、それが出来たら、切り口に合わせて水平切りを入れる方法です。この方法の肝は、最初の斜め切りのノコ道を開けるときに、照準線を伐倒方向に合わせ、チェーンソーの水平を保って、いかに固定して

どこ存知でした？参加者/青木さん、阿部さん、小口さん、唐澤さん、小池さん、木村さん、澤田さん、洪沢さん、水津さん、スタッフ/園田、早川

ん受け口が大きくなって、しまいには伐根直径の半分以上になってしまふ事です。ちようどインソップにある、ずい狐に騙されて、公平に分けてもらえるはずの肉を、最後には全部食べられるしまふ2匹の猫のようですね。

教科書には、受け口は直径の1/4〜1/3で、と書いてありますので、半分を超すとさて、困ったことに。

正しいノコ道をつけるか、という1点にかかってきます。ですので、この斜め切りは以降修正することがなく、あとは水平切りを合わせるだけになります。

一般的な日本の教科書の手順によると、水平切りから始めるので、斜め切りがぴったり合わない場合、斜め切りの修正が必要になります。慣



3年目、すいすい伐倒のはずが...

れないとこれが結構難しい作業なので、うまくできずに焦ってしまうことになりま

北欧式は、最初に納得いくまで合わせておいての斜め切りなので、これは最後までいじらない。修正は水平切りのみで、非常に合理的な受け口作りの手順と言えます。

数をこなして慣れてくれば、どちらを先に切ってもほぼぴったり合うようにはなりますが、なにせ伐倒の良否の大方を決めるのは正しい受け口ですので、あくまでも



北欧式受け口づくり、肝は最初の正確さ

正確に心を掛けましょう。参加者/雨宮さん、小池さん、松田さん

次回以降の予定

通年コース第5・6回

6月17・18日(金・土)

測樹・労働安全衛生教育

(刈払機)

森林調査の一環で、今回は樹木の様子を調べてみます。経済林(収穫し、販売する目的で育てる森林)は一般的には人工林(人が種をまくか苗を植えた森林)で、さらには一斉林(同一年齢の同一樹種)がほとんどです。そんな森林の樹木はどのように生長して、どんな特徴があるのでしょうか。

駒ヶ根市にあるヒノキ林をお借りし、高さ、太さ、密度などを調べ、今後の手入れの方針を立ててみます。

18日(土)はKOAサウスウイングで労働安全衛生法に基づく刈払い機の特別教育です。5時間の学科と1時間の実技、さらには修了試験があります。合格の方には修了証をお渡しできます。8時45分までに会場へ。

専門コース第2回開催

7月1・2日(金・土)

伊那市横山の寺有林でためのアカマツ、スギの伐倒練習を予定。傾斜もそこそこあり、密な森林です。

通年コース第7・8回

7月15・16日(金・土)

間伐

6月の測樹で調査した駒ヶ根ヒノキ林を施業診断に沿って間伐してみよう。島崎先生においでいただきます。各種間伐法などもお聞きできると思います。金曜の夕方からは恒例の暑気払

森林塾OBのご活躍

信濃毎日新聞4月12日の記事で一昨年参加してくださった中央学院大教授をされている、白水智さんが紹介されました。地震被災の長野県栄村で古文書保全のお仕事をされているそうです。通信に一文寄せていただきました。

い、BBQで一杯。山小屋に宿泊可能です。

集中コース(夏の部)

7月29~31日(金~日)

森林塾のエキスを集めた3日間です。森林調査(測樹)からチェーンソーによる伐倒まで、できればウィンチを使った集材もやってみましょう。参加者募集中。

新聞記事、お読みください

『新聞記事、お読みください』です。ありがとうございます。実は今年度、勤務先の大学から研究休暇をもらうことができ、毎月、月の半分くらいを栄村に滞在することになりました。山深い秋山郷の屋敷という地区で、村の教員住宅をお借りして住んでいます。今



信濃毎日新聞4月12日、救出資料をどう活用するか

リレー通信  
山と薪とチェーンソーに親しんで  
松田 俊彦

すが、その時にも森林塾に参加した写真などをスライドで見せると、皆さんの関心が一気に高まります。もちろん講義の本題は歴史的に見た山村生活のことなのですが、やはり林業そのものに関心があるという姿勢を見せることで、受講者の皆さんも親近感をもってくださいます。林業関係の技術、せっかく教わったのに、普段の生活の中でなかなか生かせる場が少なく、知識や技術が錆び付いていくのがもったいない焦りがあります。

私が最初に山と親しんだのは小学生の頃でした。今の時代とは違い、家の中で遊ぶゲーム機はなく、野山を駆け回るしかありませんでした。山に遊びに行くときは、肥後山の折れたたみナイフとマツチを持って、間伐した残りの枝で小屋を作ったり、敷き詰めてベットを作ったりして、一緒に行った友達と自慢しあう日々が山との出会いでした。

そんな中、区有林の『出払い』に行った時出会ったのがチェーンソーです。話には聞いていましたが現物を見るのは初めてで、2サイクルのエンジン音を響かせると感心、しかし私は見るだけで触る事は許されず、遠くから羨ましく眺めるだけでした。凄い物があるなと感心

し、他の人の使い方をずっと眺めていました。

転機が訪れたのは新居を作る時で、どうしても新ストープを導入したかったのです。その事が決まれば、薪作りは早くしておかないかと思いい、私の悪い癖ですぐに道具が欲しくなりました。右も左も分からぬまま、まずチェンソーを買わねばと、清水国明がハンドのログを組みのハスクバーナを使用しているとの記事を読んだ記憶を頼りに、インターネットのオークションで探し、展示品のハスクバーナー345を見つけ購入しました。他の機種は高価で買うことが出来なかつたというより、分からないから手が出せず結果、345になったという記憶があります。

購入後早速使つては見たものの、エンジンは掛かりにくい、重い、バーの先に



木が触れてしまいキツクバツクは起こるは怖い思いをししましたが、それでも冬には薪を何とかせねばと、1人で3日間山に入り6本切りだしました。今から考えると伐倒のことはほとんど解らないまま危ない事をしたものだ、自分ながら怖くないです。購入から10年は過ぎますが現在も使っています。ところが家も出来、薪も出来るようになり、さてこれからという時に、中国に単身赴任となり生活のため泣く泣く赴任しました。その間不在でも薪の準備をしないと家の暖はとれませんので、仕方なく近所の人にお願ひして薪を購入、さらに不足分は3カ月に1度の帰国に合わせ、原木を購入し玉切りや薪割りなどの薪つくりに励みました。

少しづつチェンソーを使っているうちに次第にチェンソーにはまってしまう、中国では仕事にインターネットを使い方から目立て方法などを探り、読みまくる、帰国したらすぐ実行してみました。結果わかつたのは「目立ては奥が深い」という事です。読みかじりで始めてみるも、左右の刃が揃わず切れば曲つてしまふ、詳しい人に聞けばホルダーが良い、ヤスリ1本が良い、はたまた本を見ればヤスリを固定しレールの上を移動する治具が目に入つて買つては見るがこれもいまいちです。チェンソーの目立は刃1本研げばなんとかが研げるようになると言いますが、10年たつても初心者の域を脱していません。中国では時間は十分ありましたがチェンソーについての記事を読みあさり、機械の事だけではなく何処かでチェンソーを覚えてくれる所は無いかとインターネットで検索しました。その結果KOAと、他には蓼科町の方に同じ様な通年での体験講座がある事が判明しました。また、会社の元上長が退職し、県の林業体験講座を受講した話も聞きました。

も取得し、これで伐倒作業は出来るはずと思ひ里山整備のボランティア活動に参加しました。この伐倒の目的は、作業道を開けるための伐倒でした。植林をしてからほとんど手が入つておらず密集した状態で、最初から掛かり木は覚悟しロープを張り対策はしましたが、すべてが思い通りには行きません。方向が決まらず見事に掛かり木になり、それを外すのに2時間も掛かりました。さらには直径30センチほどのニセアカシア伐倒の時には、重心の反対側から切つてみると、ピシと音がして2メートル近くまで裂け目が入りました。なんと倒れたけれど掛かり木になり、かろうじて裂け目が止まり、冷や汗もので頭の中は真っ白で、1日目終了。家に帰つて頭を冷やし本を読み直し、2日目に突入しました。またまた掛かり木になり、木を切る時間より掛かり木の処理時間に追われ2日目終了。結局合計7日ほど2人で伐倒作業を行い、かろうじて道を開ける場所は確保できました。しかしこの時に、自分の未熟さを痛感し、良かった事はけががなかった事だけでした。

今、山に入り木を眺めると、間伐されていないため混雑し、密集して地面には陽が届かず、太くなれず、松やカラマツなどは特にひよろひよると上に伸び、枯れているのかと見間違ふほど枝は張れず荒れ放題。そんな山に手を入れるためにはもう少しレベルアップをせねばと再度KOA塾のホームページを確認してみました。専門コースの期限はぎりぎりだったので、電話で問い合わせしてみたら快く受け付けて頂けました。第1回目が5月13日14日両日行われました。まず集会所で早川先生の紹介と参加者の紹介、伐倒方法のおさらいをして身支度をして富県の現場で伐倒開始です。まず受け口作りですが思うように出来ません。水平が出ていない、45度が水平と合わない等で、切り直しをしていると受け口がどんどん大きくなってしまい、冷や冷やで、またもや失敗。自分のセンスの無さを実感しました。今回初めて参加しましたが実習の場所も立木が密集している掛かり木になる可能性があるか、切つた後で処理をするか、切つた後で処理をするか等の見極めと、梯子を使い高いところにワイヤーを掛けホルホルを使用しての伐倒法、さらにはスローラインを投げて木の股に通し、ラインをロープに結ぶ方法、またロープの縛り方等を勉強

強しました。ですが1番の収穫は早川先生の、チェンソーが体の一部になっている様な動きを目の当たりにした事です。チェンソーを扱っている人を何人か見てきましたが、早川先生の様な動きを目標にしたいと思いました。2日間でいろいろな技術を教えて頂きました。しかし伐倒が一番大事なことは何を置いても安全ということ。山に入つたらけがをしないで帰る事が確実に出来るようにしたい。残り3回の講習で出来る限り自分のスキルアップを目指し、荒れた山を少しでも安全に整備出来る様になればと思います。

おわりに

エルニーニョ現象が終わりにかけていて、今年台風が少なそうです。昨年は塾でも台風が悩まされましたが、さて今年は何天が続く？そして暑い夏になる？たまには雨も欲しいですし、いつもと同じがやっぱり一番。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望は事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
https://www.koaglobal.com/corporate/csr/forest